

P 20 ハナビラタケ(*Sparassis crispa*) の経口投与による効果について

○ 新堂隆人¹、松浦成昭¹、杉立彰夫²、
齊藤和好²、長谷川明彦³、山田宗紀³、
鈍宝宗彦³、吉原 博⁴、福島隆一⁵

1 (阪大医・保)、2 (岩手医大第 1 外科)、
3 (ユニチカ中央研究所)、4 (ミツワ興業株式会社)、
5 (埼玉県立熊谷農業高)

【目的】ハナビラタケ(*Sparassis crispa*, SC)は β 1, 3-グルカンを高度に含有する食用キノコである。大野らは、ハナビラタケ由来の分岐 β 1, 3-グルカン
をマウス腹腔内に投与することにより、抗腫瘍作用
などの免疫賦活作用が現れることを報告している
(1)。本研究では、ハナビラタケ経口投与による免
疫系に与える効果を、マウスでの抗腫瘍作用と抗ア
レルギー作用により評価した。

【方法】①抗腫瘍効果 Sarcoma 180 を ICR-nu マウ
ス (♂) に移植し、マウス用粉末飼料、及びこれに
最大 250mg/kg 体重・日相当量の SC 乾燥粉末を添加
した飼料を自由摂取させ、24 日後に腫瘍を切除して
重量を測定し、増殖抑制率を算出した。②抗アレルギー効果 NC/Nga マウス (♂) に対し、マウス用粉
末飼料及びこれにハナビラタケ 250mg/kg 体重・日を
添加したものを 1 週間自由摂取させた後、ピクリル
クロライドを塗布して感作、発症させた。血清中 IgE
量の比較を行い、同時にかゆみの程度の判定基準と
して scratching 回数も計測した。

【結果】①抗腫瘍効果 SC 投与群では腫瘍体積がコ
ントロールと比較して最大 16%縮小した。

②抗アレルギー効果 SC 投与により血中 IgE 量は 4
週間後に 325ng/ml(対照区 790ng/ml)、8 週間後に
805ng/ml(対照区 1520ng/ml)と有意に低下し、
scratching 回数も有意に少なかった。

【結論】以上の結果から、ハナビラタケは Th1 細胞
を活性化することにより細胞傷害性反応やマクロー
ファージの活性化を引き起こすこと、一方でハナビラ
タケは Th2 細胞を抑制することにより IgE の産生を
抑制し、アトピー症状を軽減するものと推定される。

(1) Ohno N. et al., *Biol. Pharm. Bull.*, **23**, 866 (2000)